



フォトジャーナリスト 川畑嘉文講演会

なぜフォトジャーナリストは現場に向うのか ：南スーダン難民は今

2017年10月5日(木)18:00～19:30

立命館大学平井嘉一郎記念図書館1階 カンファレンスルーム - 聴講無料

主催：立命館大学国際平和ミュージアム



ジャーナリストが見る世界とは：

難民キャンプや戦争・災害被災地を訪れ、故郷を追われた人々の取材を続ける川畑氏が現場で何を思い私たちに何を伝えようとしているのか。またカメラの果たす役割とは。自身の取材活動について様々な角度から語っていただくとともに、立命館大学国際関係学部岩田准教授との対談も行います。



上：レセプションセンターに到着したばかりの少女。ここで難民登録を行う。左下：レセプションセンターから定住先へトラックで移動する少年。右下：身寄りがなく、このテントに一人で暮らす高齢の女性。
(表面) 上：草木が多く、子どもたちは靴が欲しいと訴えていた。下：ビデオビデオ居住地。無数の白いテントが並んでいる。©Yoshifumi KAWABATA



©Yoshifumi KAWABATA

川畑嘉文 フォトジャーナリスト。1976年千葉県出身。ペンシルベニア州立大学卒業。専攻は国際政治。ニューヨークのニュース社に勤務、9.11の取材が転機となりフォトジャーナリストとなる。貧困や難民問題、自然災害などをテーマに途上国や紛争地帯を取材。第39回JPS(日本写真家協会)展金賞、第17回上野彦馬賞「九州産業大学賞」、DAYS国際フォトジャーナリズム大賞2017「パブリックプライズ」、第42回JPS展優秀賞等、受賞歴多数。著書に『フォトジャーナリストが見た世界』(2014年 新評論)。

対談：岩田拓夫 立命館大学国際関係学部准教授。専門は比較政治、アフリカ地域研究。1972年徳島県出身。神戸大学大学院国際協力研究科修了(政治学博士)。在セネガル共和国日本国大使館、龍谷大学、筑波大学、宮崎大学での勤務を経て現在に至る。趣味は昆虫食。著書に『アフリカの民主化移行と市民社会論—国民会議研究を通して』(2004年 国際書院)、『アフリカの地方分権化と政治変容』(2010年 晃洋書房)



立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

<http://www.ritsumeai.ac.jp>

〒603-8577

京都市北区等持院北町 56-1

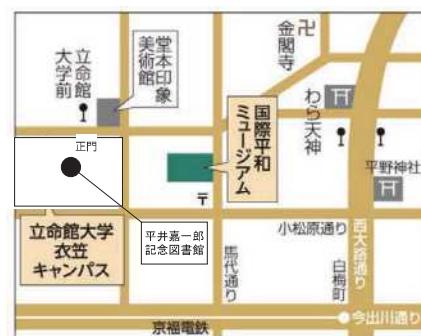
TEL075-465-8151/FAX075-465-7899



@kmwp_PR twitter.com/kmwp_PR



- JR・近鉄京都駅から
市バス 50、快速 205、JRバス「立命館大学前」
市バス 205「わら天神」
- JR 円町駅から
快速 202、快速 205、15、臨「立命館大学前」
JRバス高尾・京北線「立命館大学前」
204、205「わら天神」
- 阪急電車西院駅から
快速 202、快速 205、臨「立命館大学前」
205「わら天神」
- 京阪電車三条駅から
12、15、51、59「立命館大学前」



※お車でのご来館はご遠慮ください